2006年6月号 (通巻111号)	・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・中小企業アイ ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・内部統制をどう捉えるか ・セクター分析 ・よくわかる経済指標	株式会社の隆盛と幸せを希求する市民社会の調和 日本経済 ～輸出減速のタイミング～ 米国経済 ～急がれる不均衡の是正～ 日米経済の現状と６ヶ月後の見通し 金融政策の“ズレ”がもたらす円高圧力 円債利回り・ドル／円レートの６ヶ月見通し 公正な競争の結果か否か デフレ脱却後の論点～デフレ脱却後のインフレ圧力は限定的～ 裾野広がる今年のクールビズ商戦～今年の市場規模予想は1,504億円、昨年から+584億円の拡大が期待される～ エッセンスは「目的達成を支える手段」 ～内部統制をどう捉えるか②～ 産業別利益動向 景気動向指数
2006年7月号 (通巻112号)	・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・中小企業アイ ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・内部統制をどう捉えるか ・セクター分析 ・よくわかる経済指標	エネルギー安保と国益 日本経済～潜在成長率２％の壁～ 海外経済～スタグフレーション懸念をどう見るか～ 日米経済の現状と６ヶ月後の見通し “大トリ”日銀は“タカ”になる 円債利回り・ドル／円レートの６ヶ月見通し シリーズ　中小企業にできること・金融編　① 2006・2007年度 日米経済見通し 民間シンクタンクの経済見通し（2006年５月） ～年度後半以降の見方がやや分かれる～ 内部統制はなぜ「内部」統制なのか ～内部統制をどう捉えるか③～ 産業別利益動向 法人企業統計調査

編集後記

西暦2006年は早くも半ばを過ぎた。先の話だと思っていた2007年がにわかに間近に感じられるようになった。

一般に「2007年問題」といえば団塊の世代が続々と60歳を迎えることによる雇用構造の急変を指すことが多い。定年退職者の増加が消費・貯蓄動向や企業活動、技術の継承などさまざまな分野でどのような影響を与えるのかに関心が高まっている。

過去の「○○年問題」でまず思い出すのは世界中のコンピュータの誤作動を警戒した2000年問題だろう。国、企業をあげて対処したのは記憶に新しい。他には汐留、品川など東京都心部の大型オフィスビル同時竣工による供給過剰を懸念した2003年問題というのもあった。いずれも、事前の最悪シナリオに比べれば影響はごく小さかったと記憶する。

近未来のリスクについて「問題」として取り上げられるようになったのは10年あまり前からだろうか。終末論との関連も考えてみたが、近年過去の教訓をもとにあらゆるところでリスク管理が進んでいる証に他ならないだろう。いろいろな可能性を事前に吟味することで危機が回避されているのだと思う。今回コンピュータ言語に起因する誤作動を予想して2038年問題というものがあることを新たに知った。今後ともぜひ「問題」を探り尽くして解答に万全を期したいところだ。

このように顕在化している問題に対策が打たれるなら、本当のリスクはむしろ十分認識されていないところに潜んでいるといえそうだ。来年４月に改正年金法が施行され妻と夫の年金分割制度が導入される。これを契機とする熟年離婚の激増を予想したもうひとつの「2007年問題」がじわじわと浮上しているという。本当の危機は足元に転がっているものだ。ご用心を。

（H．U）